

独立行政法人地域医療機能推進機構 JCHOさいたま北部医療センター

平成29年度 第1回 地域協議会 議事録

- 日 時：平成29年12月5日（火） 20：00～21：00
 - 場 所：さいたま北部医療センター 大会議室
 - 議 題：1. 新病院について
2. 収支状況の説明について
3. 地域医療の現状について
 - 出席者：青木龍哉（さいたま市保健福祉局理事）、永田翔（さいたま市保健福祉局地域医療課長）、桃木茂（大宮医師会副会長）、百村伸一（自治医科大学附属さいたま医療センター長）、田中孝之（さいたま市北区自治連合会会長）、黒田豊（院長）、小池信行（副院長）、中條洋（院長補佐）、安藤さとみ（総看護師長）、志村敦（事務長）、齊藤篤志（事務長補佐）、佐藤弘明（総務企画課員）
 - 概 要
1. 新病院について
- ・ 建設に係る進捗状況について（齊藤事務長補佐）
新病院概要説明
地上7階、病床数163床、平成30年12月竣工・平成31年3月開院予定、
標榜科16診療科（内科・循環器内科・消化器内科・呼吸器内科・腎臓
内科・小児科・外科・整形外科・皮膚科・泌尿器科・婦人科・眼科・耳鼻咽喉
科・放射線科・歯科口腔外科・リハビリテーション科）
きたまちなみき橋より新病院2階へ接続する、ブリッジを設置
駐車場194台
本日現在、全体の5.6%の進捗状況である
 - ・ 住民からの要望の対応について
最寄り駅である加茂宮駅に通じる病院北側道路に横断歩道がないことから、行政
へ設置の要望をしている。
⇒ 平成30年度の予算で設置の約束を頂いた。1月中旬開催予定の住民説明にて
横断歩道設置が決定した旨を報告する。

- ・ ブリッジに係る進捗状況について（齊藤事務長補佐）

現在、植栽がある上空に設置予定のため、植栽を抜き、柱を建てて、きたまちなみき橋から延線する形で計画している。

⇒ 病院南側道路（プラザノース側）からは左折しかできないため、柱を建物に寄せて対応する。

質問等

- ・ 新病院が非常に待ち遠しい。以前あった医師会病院がなくなってから大変不便をしていたので、地域として健康増進のために尽力いただきたい。（田中氏）
- ・ 病床機能は決定しているか。（百村氏）
⇒ 外科系、内科系の急性期と地域包括ケア病棟（黒田院長）

2. 収支状況の説明について

- ・ 平成26年については、収支がほぼ同額。平成27年は大幅なマイナスとなったが、平成28年度はマイナス額が半減と経営改善されたものの赤字は変わらない状況であった。今年度については、10月時点で約1千万のマイナス収支であるが、本年後半は収支がプラスに転じる見込みである。

1日入院平均患者数は、10月までの数字だが、過去3年と比較すると上向きとなっている。病床利用率も過去と比較すると、最も高い数字である。

- ・ 収支状況を見ると、費用が減少しているが具体的な削減方法とは。（青木氏）
⇒ 一番大きな要因は人件費。平成26年度末に労働基準監督署の立ち入り調査があり、当直手当で支給していたものを、1回の当直約15時間分を事務、コメディカル部門および医師について超過勤務扱いとしたので、平成27年度は人件費として費用が増加した。平成28年度から2交代制を取り入れたことで、給与費が削減され、大幅な費用減となった。（齊藤事務長補佐）

3. 地域医療の現状について（意見交換）

- ・ 新病院のブリッジ設置は、距離があるが非常に助かる。（田中氏）
⇒ 敷地外の工事となるので、住民の迷惑にならないよう十分配慮をするが、一方通行や夜間通行止め等お願いすることもあるのでよろしくお願いします。（志村事務長）

- ブリッジは新病院と並行で建築していくのか。(百村氏)

⇒ 来月末に実施設計を完了して、病院完成と併せて設置ができるよう進めている。(齊藤事務長補佐)
- 新病院では、現在休床しているベッドを稼働するので、職員も増員していく予定という認識で良いか。(永田氏)

⇒ その通り。今年で言うと外科医師が4月に2名、9月に2名着任し、手術の症例数が増えたことで収益も上がっている。当直体制も二次救急の輪番日以外にも外科と内科を配置して、可能な限り救急車を受け入れるよう体制を整えている。その分人件費は上げてしまうだろうが、地域医療に貢献できるよう努力していく。(黒田院長)
- 現在の病床数では、地域医療支援病院の認定は難しいので、在宅療養支援病院として、地域の在宅医療を担うようお願いしたい。(永田氏)

⇒ 在宅での看取り件数が足りなくなってしまったので、一時的に取下げせざるを得なかったが、在宅で看取りたいという紹介患者に対し、看取りを行ったので、算定要件を満たしたことから、再度届出が出来た。患者も患者の家族も具合が悪いと入院を希望するので、在宅で看取るのが難しい状況である。

在宅療養連携カンファレンスを毎月行っているが、新たに連携する病院が増えたので、これから在宅療養連携も充実していくだろう。(黒田院長)
- 大宮医師会としては、さいたま市大宮夜間休日急患センターでの電子カルテ運用に注目している。医師によっては、電子カルテになると執務が難しいという話も出ている。紙カルテを使った患者が翌日受診した場合、その場でスキャナ等により取り込んだりしない限り運用が難しいのではないか。(桃木氏)

⇒ 電子カルテのベンダーはまだ決定していない。現在も記載は紙カルテだが、オーダリングシステムにて、処方や検査内容、画像結果は共有している。しかし、どこかのタイミングで電子カルテに変えていかなければならないので、執務できなくなる医師が増えないよう、紙カルテの併用については、医師会の先生方とさいたま市と相談しながら決めていきたい。(黒田院長)

- ・ 現在の場所に病院がなくなることで地域への影響はあるか。(百村氏)
 - ⇒ 早い時間に受付をして、帰宅してもう一度来るといった患者もいるので、そういったことは出来なくなるが、困るという話は出ていない。(黒田院長)
 - 自宅から少し離れるといった不便はあるが、困るといった話は入っていない。800mの距離なので、歩いて約 10 分の距離となる。(齊藤事務長補佐)
 - 現在は渋滞がひどい時があるが、今の 2 倍駐車場を用意しているので車の渋滞はなくなるだろう。(志村事務長)

- ・ 今後、跡地に何が建つかの興味を持たれる方もいるがさいたま市へお聞きするよう案内しても良いか。(黒田院長)
 - ⇒ 問題ない。平成 31 年 9 月末までに更地として土地をさいたま市へ返却いただく予定で、その後の使用目的については、現在未定。(永田氏)

4. 当院への要望

(永田氏)

- ・ 今後も、新病院についての住民説明を継続的に行う機会を設けてもらいたい。
- ・ 来年度になると思うが、いつまで診療を行いどのようなスケジュールで引越しをするのか説明いただきたい。
- ・ 開院前に、住民が見学できるような内覧会を企画してもらいたい。
- ・ 代表電話番号の変更がある際は、事前に対応が必要な事項もあるので、報告をもらいたい。

(田中氏)

- ・ 駐車スペースと交通渋滞が、住民にとっての問題となるので、十分配慮願いたい。
- ・ 多くの方が来院するので、内覧会の調整をしっかりとお願いしたい。
- ・ 開院後も医療、健康講習会を出来るだけ多く開催してもらいたい。

(百村氏)

- ・ 駐車場の混雑時の対応はどのように考えているか。
 - ⇒ 隣接するステラタウンからは、平日は駐車場を利用して良いと話を頂戴している。ブリッジも接続することから、利便性は高い。(齊藤事務長補佐)

(桃木氏)

- 駐車場への出入り口がたくさんあるので、入ってから中で混乱しないか。また、土日は反対にステラタウンが混雑して病院へ流れてこないか。
⇒ 有料駐車場のため、診療した患者に対しては無料券等を配布し、それ以外は料金を徴収するよう運用を検討している。(齊藤事務長補佐)

- 災害時に透析を行う場合、水の確保はどのように考えているか(桃木氏)
⇒ 井水と市水の受水槽を分けて設置し、市水が使用できない場合、井水を使用する予定。(齊藤事務長補佐)

- 自治医大は、予約を10分ごとで設定したことから、短時間に来院患者の車が集中することがなくなり、駐車場の混雑はなくなった。(百村氏)
⇒ ぜひとも参考にさせていただく。(黒田院長)

以上